


●最近の県内経済

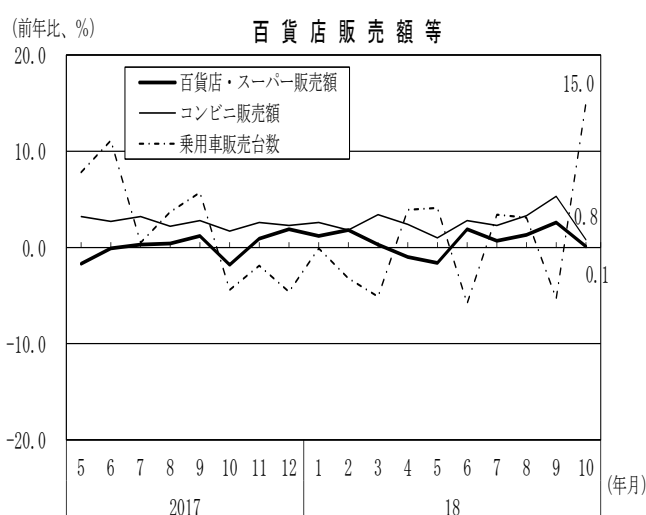
基調判断
(2018年10月を中心として)



今月の概要

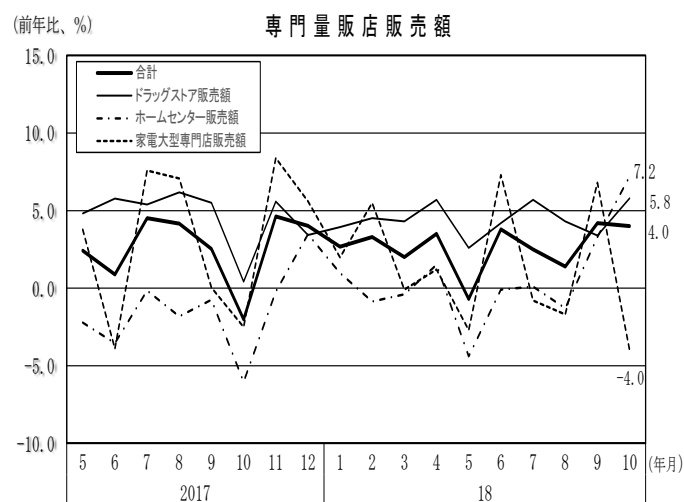
県内景気は緩やかに回復している。

1 個人消費 持ち直し



(資料)経済産業省、埼玉県自動車販売店協会など

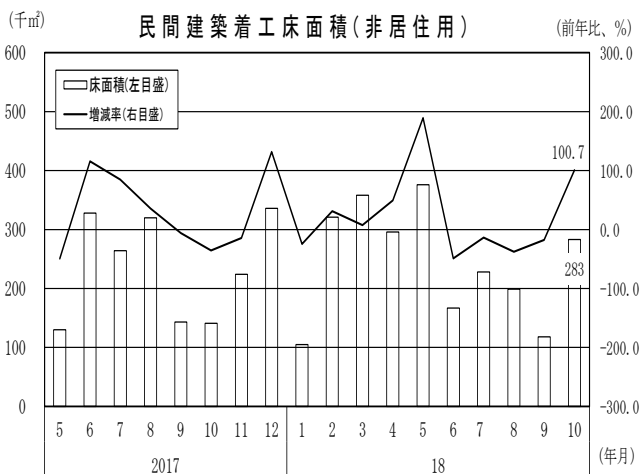
10月の百貨店・スーパー販売額(店舗調整前)は、819億円で前年比0.1%増と前年並みとなった。百貨店は同0.4%増と11か月ぶりに増加し、スーパーは同0.1%増と増加を維持した。コンビニ販売は同0.8%増と堅調に推移している。乗用車販売(軽含む)は、昨年起きた不正検査問題の反動で同15.0%増加した。内訳をみると、普通車が同20.8%増、小型車が同17.3%増、軽乗用車が同7.3%増と各車種とも増加した。



(資料)経済産業省

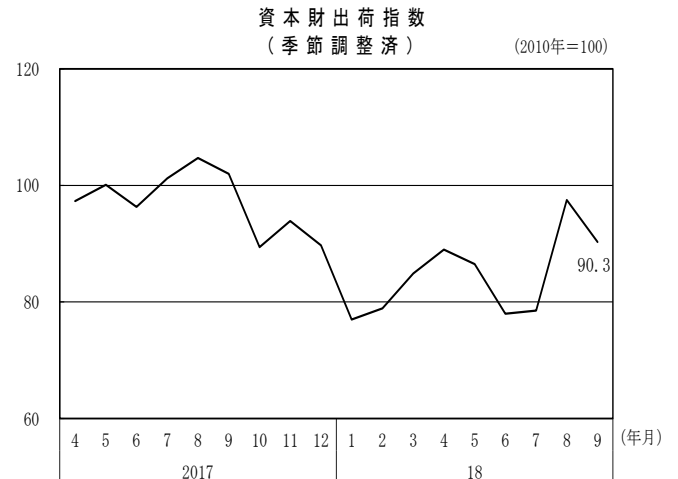
10月の専門量販店販売額は、617億円で同4.0%増と5か月連続で増加した。内訳をみると、家電大型専門店127億円で同4.0%減少したが、ドラッグストアは321億円で同5.8%増と堅調を継続し、ホームセンターは168億円で同7.2%増と増加した。

2 設備投資 横ばいの動き



(資料)国土交通省

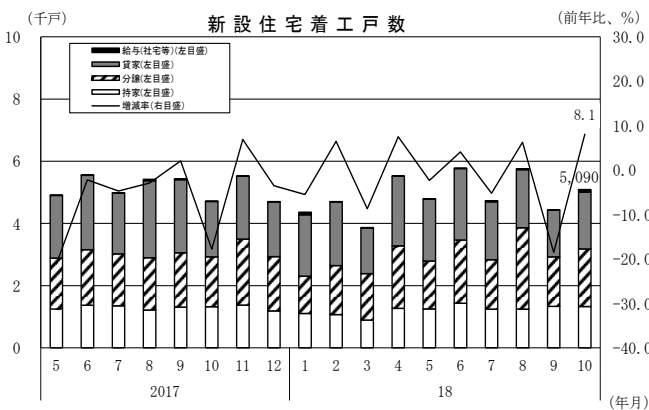
10月の民間建築着工床面積(非居住用)は、283千㎡で前年比100.7%増と5か月ぶりに増加した。用途別にみると、事務所、店舗、工場及び作業場、倉庫などが増加した。



(資料)埼玉県

9月の資本財出荷指数(季節調整済)は、90.3で前月比7.4%低下した。

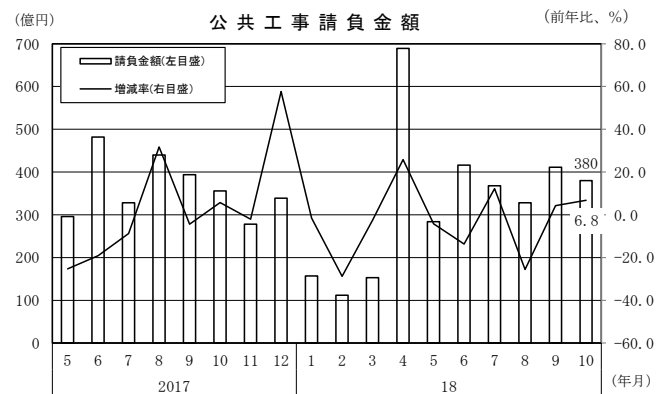
3 住宅建設 弱含み



(資料)国土交通省

10月の新設住宅着工戸数は、5,090戸で前年比8.1%増加した。利用関係別にみると、持家が1,328戸で同0.5%増、貸家が1,829戸で同3.0%増、分譲戸建てが1,358戸で同4.4%増、分譲マンションが487戸で同69.1%増とそれぞれ増加した。貸家は6か月ぶりに増加したが、10月までの年度累計では前年同期比8.1%減と弱含んでいる。

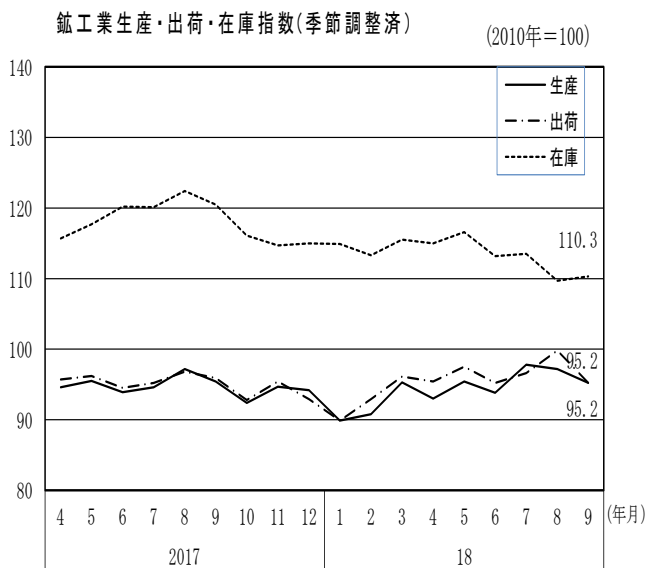
4 公共工事 横ばいの動き



(資料)東日本建設業保証株式会社

10月の公共工事請負額は、380億円で前年比6.8%増加した。10月までの年度累計では前年同期比1.1%増と横ばいの動き。10月単月を発注者別でみると、国、独立行政法人等が減少したものの、県、市町村などが増加した。

5 生産活動 一進一退

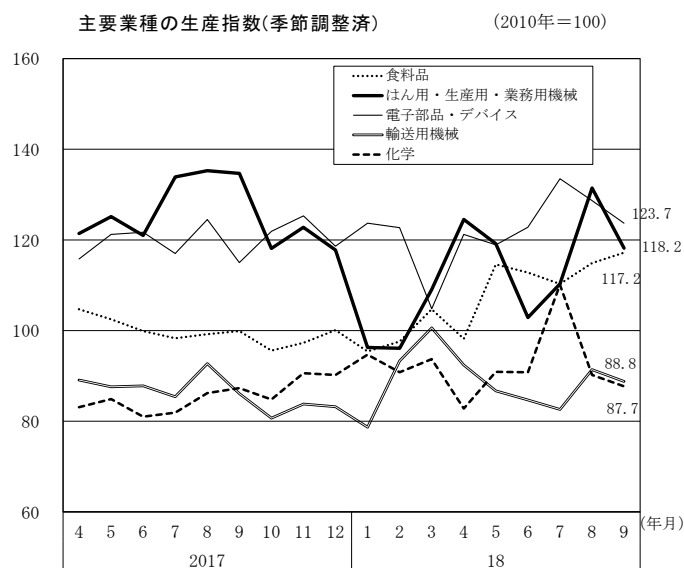


(資料)埼玉県

9月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、95.2で前月比2.1%低下した(2か月連続の低下)。業務用機械(医療用機械器具)、食料品(炭酸飲料)などが上昇したが、生産用機械(半導体製造装置)、はん用機械(空気圧機器)、化学(医薬品)などが低下した。

出荷指数(同)は、95.2で同4.6%低下した(3か月ぶりの低下)。業務用機械(医療用機械器具)、食料品(炭酸飲料)などが上昇したが、生産用機械(半導体製造装置)、輸送用機械(乗用車)、電子部品・デバイス(集積回路)などが低下した。

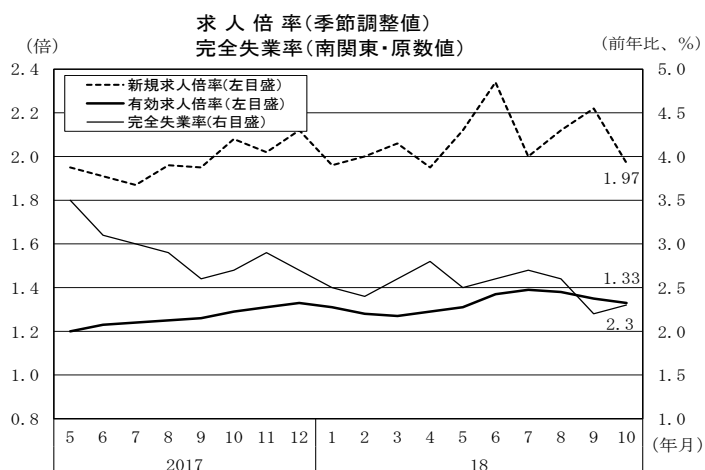
在庫指数(同)は、110.3で同0.5%上昇した(2か月ぶりの上昇)。輸送用機械(乗用車)、家具(システムキッチン)などが低下したが、プラスチック製品(容器)、電子部品・デバイス(集積回路)、非鉄金属(銅電線)などが上昇した。



(資料)埼玉県

- ◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、117.2で前月比2.0%上昇し、2か月連続の上昇となった。
- ◆ はん用・生産用・業務用機械(同)は、118.2で同10.0%低下し、3か月ぶりの低下となった。
- ◆ 電子部品・デバイス(同)は123.7で同3.9%低下し、2か月連続の低下となった。
- ◆ 輸送用機械(同)は、88.8で同2.8%低下し、2か月ぶりの低下となった。
- ◆ 化学(同)は、87.7で同2.8%低下し、2か月連続の低下となった。

6 雇用情勢 着実に改善

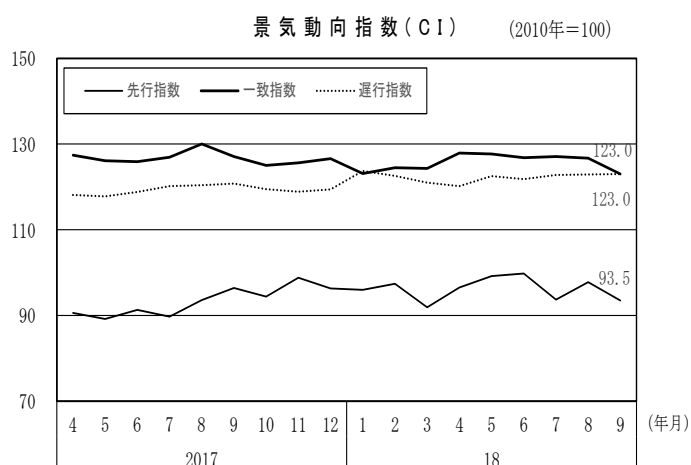


(資料)厚生労働省、総務省

10月の新規求人倍率(季節調整済)は1.97倍で前月比0.25ポイント、有効求人倍率(同)は1.33倍で同0.02ポイント、ともに低下した。完全失業率(南関東、原数値)は2.3%と同0.1ポイント上昇したが、低水準で推移している。

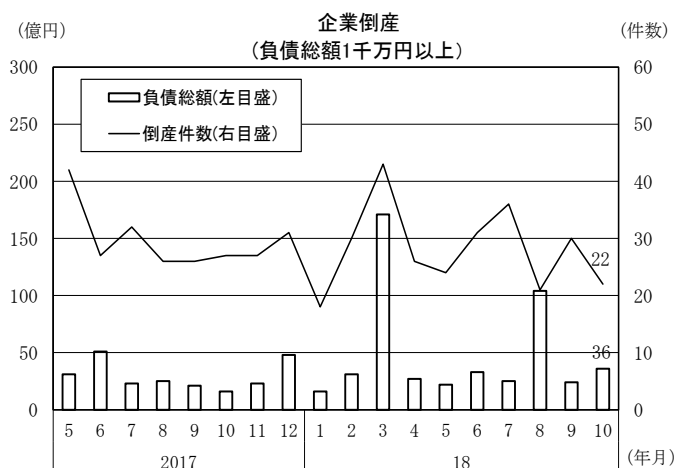
〈参考〉

景気動向指数(CI) 悪化を示している



(資料)埼玉県

7 企業倒産 低水準



(資料)帝国データバンク

10月の企業倒産件数は22件で前年比5件の減少、負債総額は36億円で同20億円の増加となった。

業種別にみると、製造業と小売業がそれぞれ5件で最多となっている。次いで建設業とサービス業がそれぞれ4件、卸売業が2件となっている。主因別では、販売不振が19件で最も多くなっている。

9月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、123.0で前月比3.7ポイント低下し、2か月連続の低下となった。

CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、93.5で前月比4.3ポイント低下し、2か月ぶりの低下となった。

CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、123.0で前月比0.1ポイント上昇し、3か月連続の上昇となった。